

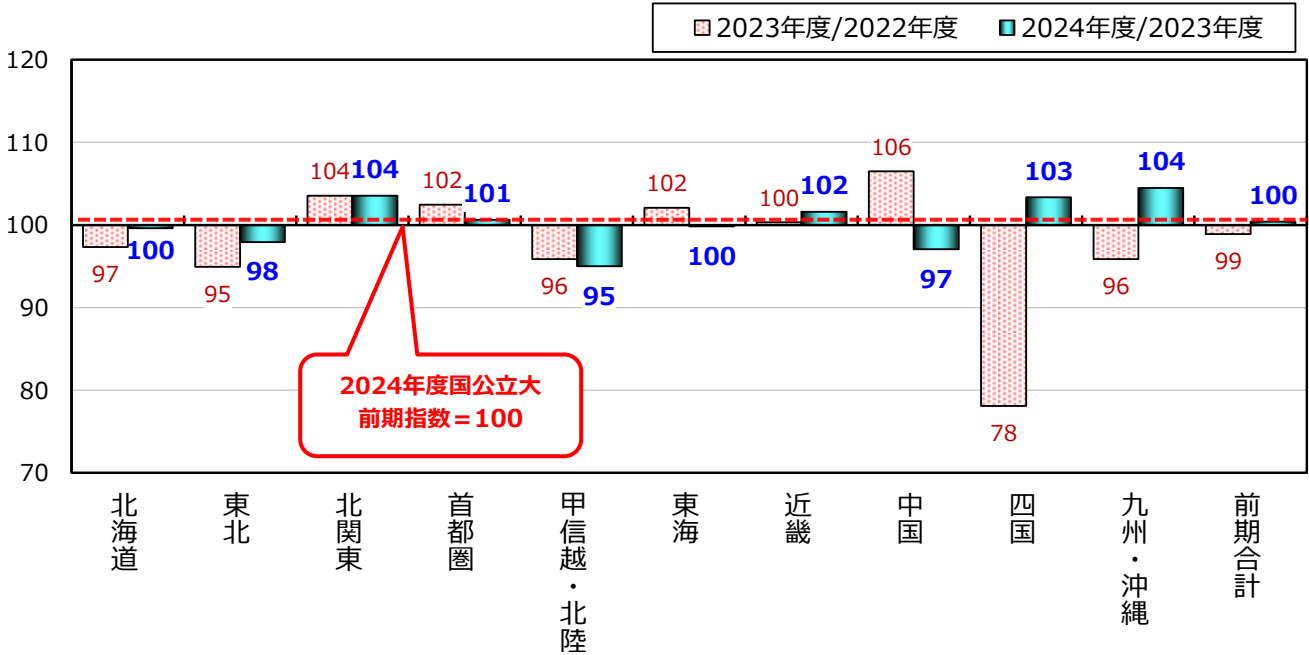
※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎ 地区別志願状況

□ 前期は北関東、九州・沖縄でやや増加、甲信越・北陸はやや減少

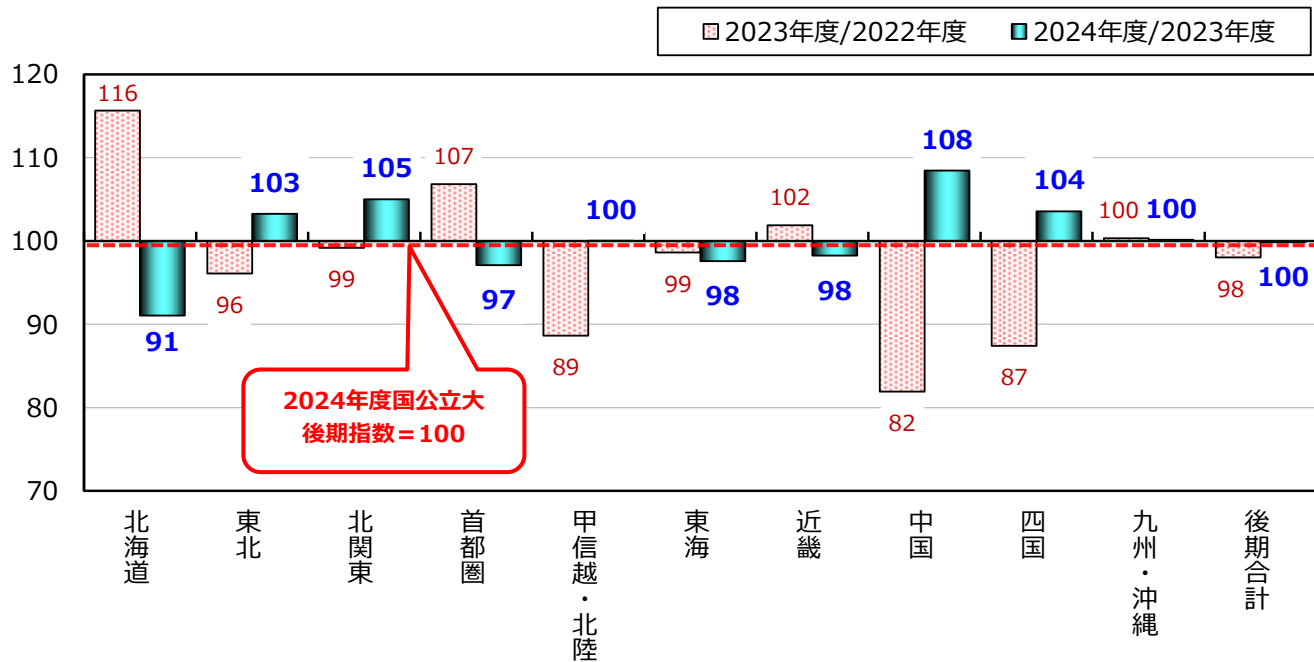
〔地区別志願者指数〕

<前期日程>



前期は、北関東(104)がやや増加で3年連続増加、九州・沖縄(104)はやや増加で5年ぶりに増加、四国(103)は前年度大幅減少の反動でやや増加、近畿(102)、首都圏(101)が微増でした。一方で、甲信越・北陸(95)は能登半島地震の影響もあってかやや減少、中国(97)は前年度の反動による増減ですが、瀬戸内海を挟んで対面する四国(103)への流出があったものと思われます。東北(98)は微減で2年連続減少となりました。これらの動きの中で人口の多い首都圏(101)は3年連続前年度並、近畿(102)は4年連続前年度並でした。

<後期日程>



後期は、中国(108)が増加、北関東(105)、四国(104)、東北(103)がやや増加となっています。一方で、北海道(91)が減少、首都圏(97)はやや減少、東海(98)、近畿(98)が微減となっています。人口の多い首都圏、東海、近畿から地方への流出の動きがうかがえます。

北海道(91)は減少ですが、北海道大<後>(95)が2年連続増加の反動でやや減少したことが影響しました。四国(104)は前年度の反動による増加ですが、中国(108)は前年度岡山大が後期募集を停止したこともあり大幅減少しましたが、鳥取大(167)、島根大(150)の大幅増加が影響しています。